



# 朝東っ子だよい

令和8年1月号 令和8年1月8日発行

川口市立朝日東小学校

【学校教育目標】よく学ぶ子 心の豊かな子 じょうぶな子 児童数 1年生47名 2年生68名 3年生58名 4年生56名 5年生55名 6年生57名 計341名

## 飛躍の年の始まりに

～学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 朝日東小の子～



校長 春川 嘉孝

新年おめでとうございます。保護者・地域の皆様におかれましては、穏やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和8年：「8」という数字は末広がりとして、発展や繁栄を表す数字。

午年：今年は「丙午（ひのえうま）」。この年は、「前進」「挑戦」「飛躍」「情熱」を象徴する非常にパワフルでエネルギーに満ちた年になるとと言われています。新しいことへの挑戦や努力が実を結びやすく、運が味方する一年です。（A.Iによる概要）

このような年、朝東っ子、朝日東小学校にかかる全ての方々にとって、希望に満ちた一年間を過ごすことができるよう、教職員一同 力を合わせて取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

「バングラデシュ」という国をご存じの方も多いと思います。そのバングラデシュにある「チッタゴン丘陵地帯」で、学校を運営している方と話す機会がありました。学校に通う子供たちは、約60名、多くの子供たちはその学校で生活をしています。朝は5時に起床、8時の朝食までに宿題や掃除を行い、9時からの朝礼（朝の会）で一日の学校生活が始まります。午前中は教科の学習、午後は自然などを生かした活動、夕食調理のお手伝い、清掃、ハンディクラフト制作等を行い、17時に夕食。就寝時刻までは自習や宿題をして過ごすという生活です。この方は、学生の時に映像をつくる勉強のため、この地を訪れたそうです。映像を撮るうちに、一瞬一瞬の記録ではなく、日々の生活を通した映像記録を撮ることの大切さを感じました。自分にとってチッタゴン丘陵地帯が「第二のふるさと」のような環境で、映像と同時に「子供との関わり」にも関心があったことから、映像を通して子供たちと関わっていきたいと考えるようになります。そして、様々な苦労や努力を重ね大学まで進学したこの地域出身の学生から「チッタゴン丘陵地帯にまだたりない支援の一つは教育である」と言われ学校運営に力を入れることになったそうです。現地の方との生活を通して、今の学校を運営していくことは、多くの苦労があるそうです。自分の思い通りにいかないことも、運営資金を募ることも。それでも「キニティウという一校を大切に、豊かにしていきたい。家族のような感覚で学校を運営していきたい。通っている子供たち、これから入学してくる子供たち、卒業した子供たちと関わっていきたいという強い思いがある」と話していました。この学校にはチッタゴン丘陵地帯に住む11民族の中の2つの民族の子供たちが通っているそうです。様々な家庭環境、様々な考え方の中で、一つの学校として運営している姿、その地にあったやり方で将来を担う子供たちを育てていることにも感心するばかりです。この学校のビジョンは「どんな環境にあっても、子供たちが夢を抱き、成長と挑戦を応援される環境づくり。幸せを感じられる感性や人生の礎となる体験は『子供時代』にあったといつか思える未来」です。

いつの時代も、どこの国や地域でも、子供たちの成長に寄せる思いは同じだと感じます。朝日東小は「学校で学び、家庭でしつけ、地域で育む」をモットーに長年にわたり、家庭・地域と共にある学校です。三学期は、進学・進級するための準備の学期。今の学年での生活をより豊かに、そして、自信をもって次年度に挑めるよう、力を尽くしてまいります。午（馬）年がペガサスのように羽ばたける一年にしてまいりたいと存じます。

右の漢字は何と読むのでしょうか？

馬